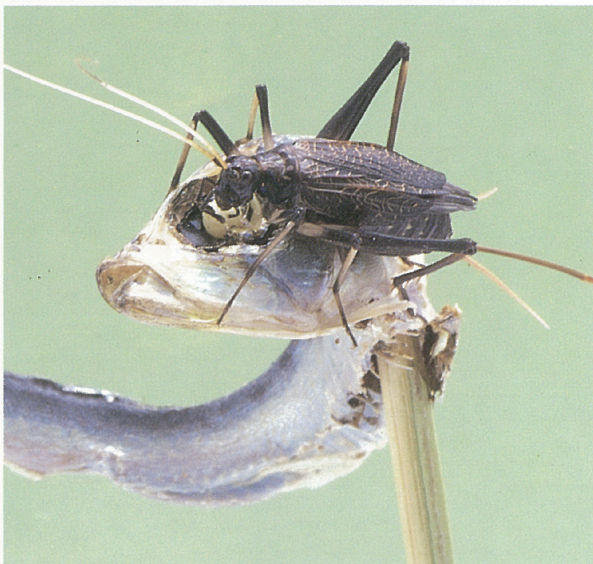


ニボシにかぶりつく



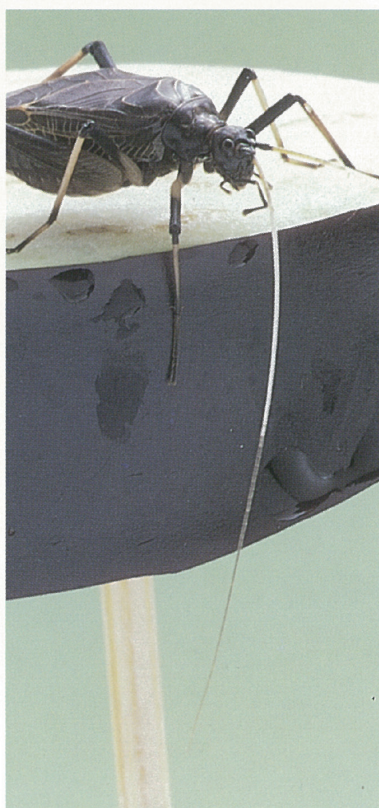
口ひげで味を見る



前脚の耳で鳴声を聞く



触角で臭いをかく



● 食べ物をかじる口

スズムシの口は、他の昆虫の仲間と同じように、大あご、小あご、下くちびる、上くちびるなどからできています。雑食性で何でも食べますが、食べるときには口元のひげで味を見て、ネコの歯のように鋭いあごでがぶりとかじります。

● においをかく触角と複眼

スズムシは、長い触角を突き出して、食物や仲間の臭いをかぎつけたり、暗闇の中で周囲を探っています。触覚には、においをかぎわたるたくさんのくぼみがあります。この大切なアンテナ役を果たす触覚を、スズムシは弓なりに曲げて、口でなめまわし、たえずきれいに掃除しています。スズムシの目は、小さな目がたくさん集まってできています。これは複眼といわれるもので、トンボやチョウなど他の昆虫と、同じしくみを持っています。

● 前脚に音を聞く鼓膜器官

スズムシの前脚には、小さな細長い穴が開いており、この中に耳の役割を果たす器官があります。それは鼓膜器官と呼ばれる音を感じる鼓膜で、音を伝える神経が集まっています。スズムシはここで仲間の鳴き声や音を聞き取っています。両脚の耳で音の強さを比べ、相手がどの方向にいるのかを探っているのです。

● すばやい足

脚は、ほかのコオロギ類より細くて長く、フワッと体を支えている感じですが、意外や意外、走るのはとても得意で逃げ足が早いのです。